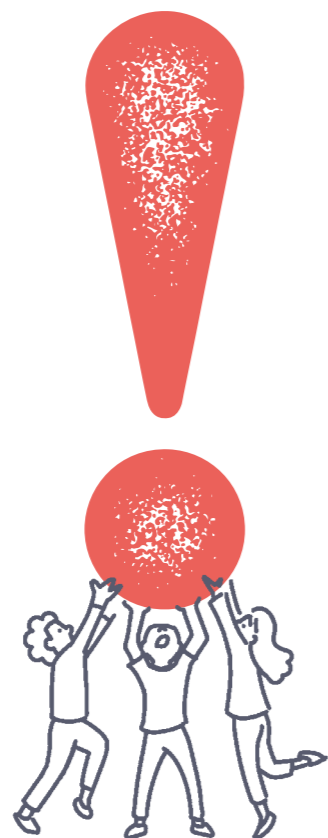


みつかる！
つながる！
生涯、学習！



尼崎市は「みんなの尼崎大学」や「生涯学習プラザ」を通じて「！(感動や驚き)」を見つけたり、地域とつながる人たちをサポートしています。

発行元：みんなの尼崎大学事務局（尼崎市 生涯、学習！推進課）
〒661-0974 兵庫県尼崎市若王寺2-18-5 あまがさき・ひと咲きプラザ
電話 06-4950-0387 FAX 06-6491-5190

2024年0月発行

☒ 尼崎市

見つかる！学びから

みんなの
尼崎大学

Univer City of Min'na Amagasaki

ガイドブック

まちじゅうに！が生まれる キャンパスマップ

尼崎のまちではたくさんの人がいろんな場所で、
さまざまな活動に取り組んで
「！（感動や驚き）」を生み出しています。
あなたもまちに飛び出して
一緒に「！」を探してみましょう。



空がきれいに
なった！



がつないだ な本屋 さんの話

「学び」をきっかけに人と出会う。そんな思いで運営してきた「みんなの尼崎大学」で、昨年すてきな出会いがありました。武庫之荘で「本屋をひらきたい」と思い立った平田提さんが、各地の先輩書店をたずねて相談する中でたどり着いた「小林書店」。店主の小林由美子さんから「それやったら尼崎大学で相談してみたら」とアドバイスをうけ、平田さんは尼大の門を叩くことになったのです。

「みんなの相談室」という街の人たちが相談を持ち寄る場で「本屋をひらこうと思うのですが」と切り出した平田さん。参加者からは「尼崎に新しい本屋ができるかも」という期待と喜びとともに「あそこへ行ったらどうか」「あの人を紹介しようか」とおせっかいが飛び交いました。

本の仕入れからお店の工事まで、尼崎のローカルな関係がつながり2023年10月にオープンしたお店「DIY BOOKS」の店内で、小林さんと平田さんがそれぞれの本屋を通じて目指す世界を語り合いました。

—平田さんはどうして本屋を開こうと思ったんですか。

平田 これまでWebの編集者・ライターとして活動する他、Googleの検索上位に上がるような戦略やコンテンツを作る仕事をしていましたが、一人で毎日パソコンに向かってカタカタしていると、だんだん自律神経というか頭がおかしくなる気がして…。「これはあかん」と思った時に、アナログなものを作りたいなとリソグラフに出会いました。リトルプレスやZINE(ジン)といった自分の本を気軽に作れる印刷機です。

神奈川県にある「本屋生活綴方」というお店でリソグラフ講習を受けたところ、「本屋もやった方がいいよ」と言われてその気になったんです。地域の子もや大人が自分のことを気軽に本にするような街の一端を担えればと思い、地元の書店をめぐる中で小林書店に出会ったんです。でも、そこで昌弘さん(由美子さんの夫)からは、2回も「本屋はやめといたほうがいいよ」と言われました。



1952年創業の「小林書店」(立花町)と2023年に開店したばかりの「DIY BOOKS」(武庫元町)。そのなりたちやあゆみは違いますが、お二人の店主に「本屋をひらく理由」を語りあってもらいます。本の売り買いだけじゃない、本を通じて人が出会える場所を、という思いに「みんなの尼崎大学」がせまります。



小林由美子さん

1949年尼崎市生まれ。両親が営む小林書店を夫婦で引き継ぎ、地域に親しまれるまちの書店としての活動は小説や映画にもなっている。



平田提さん

1983年秋田県生まれ。Web編集者・ライターとして活動する中で、アナログなものとローカルな可能性を探る“つくれる本屋”DIY BOOKSを開店。



—開店から3ヶ月ですが営業はいかがですか。

平田 なかなか厳しいですね。改めて小林書店を大尊敬しています。創業から70年というのはすごいことです。

—小林さんはどうして書店をやってるんですか。

小林 私が3つの時に両親が開店した10坪の小さなお店です。終戦後に田舎から出てきて本屋への住み込みを経て独立したんです。年中休みもない仕事を見ながら「商売だけは絶対にしたくない」と思っていました。私は二人姉妹でしたが、親からは「小林の名前だけは継いでくれ」となぜか洗脳されていたんです。

サラリーマンへの憧れがあり、学校卒業後は会社に就職しました。そこで夫と出会ったんです。子どもにも恵まれ、夫の関東への転勤が決まった途端、彼が会社を辞めるっていうんです。「君の家族と一緒に暮らした方が幸せじゃないかな」と言ってくれて、あんなに嫌だった本屋を夫婦で手伝うようになりました。

—昔は本がよく売れて、いい時代だったんじゃないですか。

小林 それよく言われるんですが、今も昔も大変な商売ですよ。ベストセラーといわれるような売れる本は、小さな本屋には入ってこないんです。だからできるだけ在庫を減らして、自分がいいなと思う本をたくさん仕入れてお客さんに買ってもらうような方法に変えたんです。それが35年ほど前。

平田 それはまさに今の新しい本屋のスタイルですね。小林 配達しているお客さんから、私のおすすめの本の予約を集めたんです。うちが完全に売り切れる本を注文して売って、というのを繰り返すうちに、出版社や問屋さんから信頼されるようになってきました。



！がつないだ な本屋さんの話

本屋は教会？ お店を訪ねる人との関係

一本を買いに行ってお金を払うだけならネット通販でいいですね。お店での接客やおしゃべりについて教えてください。

小林 せっかくお店に入ってきてくれたのに、会話もせずに帰って行かれたら残念で仕方がないので「どんな本を探していますか」と話しかけるようにしています。それだけじゃなくて「今面白い本があってね。これこれこういう本だね」って私、内容まで話すんですよ。

平田 店員さんから話しかけられるのが嫌な人もいますが、「まちの本屋は教会みたいだ」という話を聞いたことがあります。うちのようないちぢいお店は距離が近いし、何らかの救いを求めて来られているのかもしれない。その真ん中にたまたま本があるっていう感じ。



小林 平田さんのお店の本棚を見ていると、平田さんの思いが込められている感じがするからね。並んでいる本と一緒に眺めているだけで話がしやすくなるかもしれないね。

—今、尼崎市内では本をめぐるスポットが増えてます。「本」というものが媒介して、人が出会ったり、話したりするきっかけになっている気がします。

小林 なんかちょっと疲れたり、悩んでいる時に本屋に来る方はおられます。そんな人に「どんな本を探しているんですか」って話しかけることは必要だと思います。



まちの小さな空間を守るために

—居場所やコミュニティスペースといわなくても、そうした風景が実現しているのは興味深いです。

小林 阪神大震災の直後に本棚が崩れても、一枚だけシャッター開けていたら近所の人たちが次々にうちの店に飛び込んで来ました。それで「怖かった怖かった」とすごい勢いで話していくんです。本は一冊も売れませんでした。人が気軽に立ち寄れる場所として改めて「本屋をやっているよかったなあ」と思いましたね。

—開店から3カ月。平田さんはレジに座ってお店をひらいていかがですか。

平田 本屋って驚くほど話をする仕事なんだなと思いました。お客さんがすごく話しかけてくださいます。「今日はたくさん話したなあ」と思っても売上ゼロの日もあったり。目先の売り上げは大変なんです。もうちょっとおすすめの本の話をしたり、本を通じた人との出会いを意識したいなと思います。

小林 でも家賃も払わないといけないでしょ。そういう思いのある本屋こそ、やっぱりつぶれたらあかん。こうした場所を残すために売上を上げる方法を考えないといけない。

平田 そうなんです。だからWebの仕事しながら収入を確保する他、会員制のサービスや読書会やイベントなどの売上もきちんと考えたいと思っています。持続可能なお店でありたいし、せっかくひらいた責任も感じています。お客さんからも意見をもらいながら今後のことを考えていきたい。

—本屋のような小さな空間はまちにあった方がいい。でも経済的な自立も必要。小林さんはそのためにこれまでどんなことしてきたんですか。

小林 阪神大震災で建物が被害を受けた時に、修理に800万かかるといわれたんです。何か本以外のものも売らないと、と探して魅力的な傘を扱うようになったんです。本よりも利益率がいいし、たくさん売れてなんとかお店が持ちました。

尼崎の本を尼崎で売る。 まちの本屋の可能性



—お二人とも本を売ることだけが目的ではないのでは？

平田 お店で本棚を眺めていたら、本だけでなく、お味噌汁の本の横に味噌を置いて売ったり、法律本の隣に近所の弁護士事務所のチラシを置いたりしてもいい。本を入りに色んな世界とつながれる。本屋ってやっぱり魅力的だと思っています。

小林 したらあかんことなんて何もないんですよ。あかんと思っているのは自分だけ。だって自分の人生やもん。楽しくなかったらあかんやん。

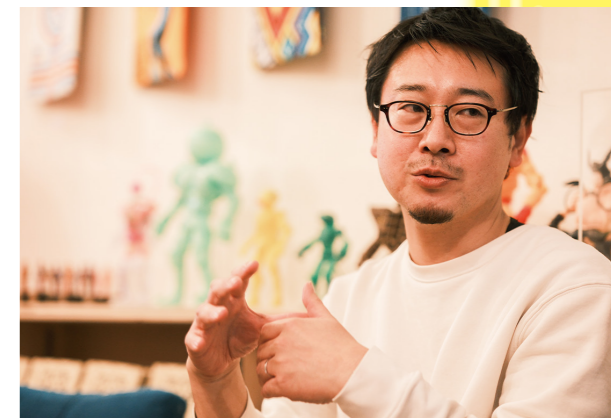
—平田さんは開店前に『武庫之荘で暮らす』という本を出版されました。武庫之荘のローカルな世界が書かれていて共感できる一冊です。

平田 現在店内で展示している作家さんの本や、サマ



DIY BOOKS

武庫元町商店街にある新刊・古本が並ぶ書店。店内には孔版印刷機リソグラフを完備し、ZINEと呼ばれる自主出版をサポート。営業時間は月・木・金 13:00~18:00 武庫元町1-27-5 Instagram @diybooks



セミで「ヤギ除草」の授業をされた守さんという方の本地元の小説家の本を発行したり、ローカルな出版社としての活動にも力を入れています。「自分のまちのことを書いて自分のまちの人に本を売る」という“どローカル”な世界って実は強いんじゃないかなと思っています。一人で一冊作るのは大変ですが、まちの人の文集は作ってみたいと思っています。

—尼大生の論文集とかを、おしゃべりしながらこのお店で印刷から製本までの作業をするのは楽しそうですね。

平田 「何をやってもいい」という小林さんの言葉には励まされました。うちも本の可能性をひらくような場所になればいいなと思います。本を中心に人が集まり、結果として本が売れてお店が続くといいなと思ってた気持ちを後押ししてくださいました。

小林 応援上映や絶叫上映など面白い取り組みをしている「塚口サンサン劇場」という映画館の人の本が今度出るんですが、その彼が「僕らが向き合うのはよその劇場じゃなくて、うちに足を運んでくれる人」と言っているんです。尼崎には若い世代のユニークな挑戦がたくさん生まれています。私はそんな人たちにバトンを渡したいと思っています。



小林書店

立花商店街の北のはずれにあるまちの本屋。作家のトークショーや書評合戦ビブリオバトル、街の人が好きなことを話す「コバセミ！」など催しも多数。由美子さんに会いたいと全国から来客が絶えない。立花町2-3-17 TEL 06-6429-1180

地元で見つける さいしょの「！」

「やってみたいこと」「相談したいこと」を持ち寄る
井戸端会議が市内のあちこちでひらかれています。
誰もが参加できて出入り自由な定期的な集まりから、
このまちの新しい「！」が生まれています。

大学で
ともだち作る
コツを教えて

捨てられるホースで
何かできないかしら

みんなの
アイデア
聞いているだけで
楽しい

立花かいわい会

立花地区界隈の人たちが定期的に「わいわい」と集まれる
場を、という思いから名付けられた「立花かいわい会」は毎月
第2火曜日の13時からと18時30分からの2部制。

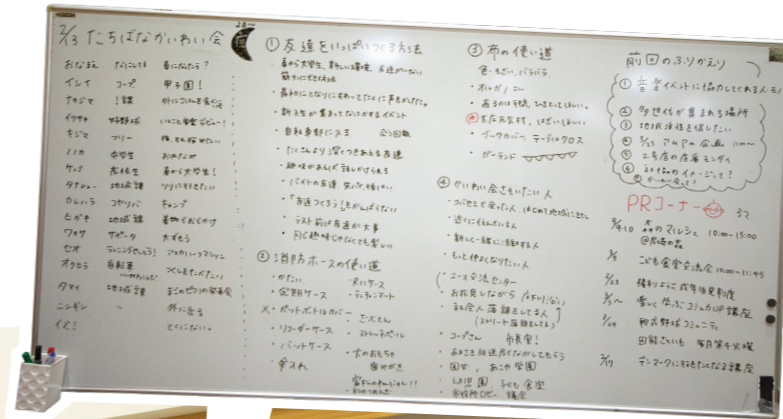
吹き抜けが気持ちいい立花南生涯学習プラザの
ロビー。毎月第2火曜日の18時30分になると、ぐ
るりと円になった椅子に仕事や学校を終えた人た
ちが集まってきます。立花地域課職員の司会で、
はじめにぐるりと全員で自己紹介。名前と普段
やっていることとともに「春からはじめたいこと」
を話し、場が一区になごみます。

ここからがメインイベント。「今日みんなで話
したいことを持ってきた人はいますか？」と司会
が声をかけると、サークルから次々と手が挙がり
ます。「今年から大学生になるけれど友達ができる
か心配」という高校3年生、「廃棄される消防ホ
ースの活用アイデアが欲しい」と市職員が呼びかけ
ると、「うちにも布がたくさんあるんだけどだれか
使ってくれないか」と福祉施設の人もお題出し。



それぞれの議題について15~20分ずつ時間を取っ
て、じっくりと話し合います。

高校生からの相談に自分の学生時代を振り返っ
て大人たちが甘酸っぱい気持ちになったり、消防
ホースを手にしながら「リコーダーケース」「野球
バット入れ」など大喜利が繰り広げられたり…。
月に1回わいわいとご近所のおせっかが飛び交
う時間が、地元の暮らしをきっと豊かにしてくれ
るはずです。



それやったら
こんな人
紹介しますよ

6地区生涯学習プラザ

- 中央おしゃべりデー ● ことはじめかいぎ ● おだらぶ土曜雑談会
- そのだけではなすのだ ● みんなのホームルーム



各地にあるぞ!

まちの井戸端会議

各地区生涯学習プラザだけでなく、まちじゅうで
「やってみたい」を持ち寄る場所が生まれています。

みなくる☆そのだコープさんとこ「くろこ会議」



やってみたい、つながり
たい、ひろげたいを叶え
よう! 「みなくる☆そのだ
コープさんとこ」はコープ
園田2階にある集い場
で毎月1回「くろこ会議」
を開催中です。

大庄元気むら「つどい場会議」



2019年に閉店したコープ
大庄の建物を生かして、
地域のつどい場としてス
タートした大庄元気むら。
毎月第2金曜日に「つど
い場会議」を実施してい
ます。

シェアスペース hinata「オープンミーティング」



阪急園田駅徒歩3分の場
所にある、シェアスペース
hinata。地域の方の「やり
たい」を「できる」にするた
め、「やってみたい」を話す
「オープンミーティング」を
毎月1回実施しています。

三和みらい会議



阪神出屋敷駅近くの三和
本通商店街の未来を考え
るアイデア会議「三和み
らい会議」です。毎月第4
火曜日開催。商店街の人
だけでなく企画に興味が
ある方も参加できます。

尼崎の森中央緑地「森の会議」



尼崎の森中央緑地で毎月
第1土曜日に開いている「森
の会議」。尼崎の森や沿岸
部でやってみたいことや
企画を持ち寄り、自由に
集まっておしゃべりする
気軽な時間です。

杭瀬アクションクラブ



毎月1回、夜7時からの90
分。商店街、病院、介護
施設、不動産、小学校な
ど杭瀬にかかわる人た
ちが集まり、まちの近況と
やってみたいことを話し
合っています。



わかば老人給食グループ

活動内容/武庫東生涯学習プラザを中心に、地域で暮らす高齢者に食事を提供する活動をしています。スタッフも高齢者ですが、みんなで集まり食事を楽しむことで、お互いの安否確認という仲間づくりの機会となっています。

こんな人におすすめ 料理やおいしいものが好きな人。抹茶も立えます。



二商店

活動内容/いろんな古本屋さんの二商店として、共同運営をされている杭瀬中市場の「たまれる古本屋」。有志が日替わりで店番をし、いろんな方に関わってもらって継続している古本屋です。開店時間は11時から16時まで。

こんな人におすすめ 本が好きなお店番を体験してみたい人。



NPO法人 あまがさき環境オープンカレッジ

活動内容/尼崎で10年目を迎える団体です。市民・企業・行政などの枠を超えて、環境を楽しく学び、活動できるきっかけづくり(イベント・学校への環境学習等)を行っています。

こんな人におすすめ 楽しみながら環境について学びたい人やイベントが好きな方。



一般社団法人ポノポノプレイス

活動内容/地域のリビング、地域の子育て応援団として平成27年より活動をし、誰でも気軽に立ち寄る場を目指しております。子ども食堂、ママのストレス解消サポート、育児イベントなどを実施しています。

こんな人におすすめ 井戸端会議のようなお話を求めている人。



NPO法人 ASK

活動内容/スケートボードをする若者の集まりです。スケートボード場の整備や、スケーターたちのマナー向上など、スケートボードをする人も、そうでない人も、お互いに暮らしやすいまちづくりを行うために活動しています。

こんな人におすすめ スケートボードができる環境づくりに興味がある若者。



杭瀬スプーンクラブ

活動内容/杭瀬公園と今井材木店に集まって、木材の端材で毎月スプーンをつくっていますが、公園のそうじをしたり、木のおいにお包まれておしゃべりしたりしながら、ローカルな関係づくりも大切にしています。

こんな人におすすめ ゆったりとした新しい居場所を求めている人。



Reborn.R

活動内容/乳がん経験者による乳がん経験者のためのコミュニティ【Reborn.R】です。みんなでお風呂を楽しみながら乳がんを知るイベント「乙女温泉」の開催や経験談の紹介などを行っています。

こんな人におすすめ 乳がん仲間さんはもちろん、知っておきたい人も。



尼崎チャンネルガイドの会

活動内容/ウォーキングガイドを中心に、尼崎運河をはじめとする臨海部の歴史や魅力についてご案内しています。尼ロックや季節ごとの景色を楽しむウォーキングイベントも開催しておりますので、ぜひご参加ください。

こんな人におすすめ 街歩きや雑学が好きな方。工場風景等に興味がある方。

尼大 新歓! 2024

まちでなにかはじめてみたい人。
自分の興味や関心をヒントに、
まずは今ある活動の
のぞいてみませんか。



園北ファーム

活動内容/善法寺や田能などにある地域の方とつくる、「コミュニティ農園」。有機栽培で、季節ごとに色々な野菜を大きな畑で育てています。雑草とりや芽かきといった日々の作業から、収穫体験も可能です。

こんな人におすすめ 農業や自然に興味がある人。小さいお子さん連れでも。



アジサイクラブ

活動内容/元浜緑地にある「もみじ池」周辺で、年間を通してアジサイのお世話をしているボランティアグループです。除草を中心に施肥、灌水、挿し木、植え付けなど季節に応じた栽培管理をしています。

こんな人におすすめ お花のお世話が好きな方。緑一杯の公園で作業できます。



一般社団法人尼崎家守舎

活動内容/空き家などの遊休不動産を活用してまちを元気にしていくことや、自分らしい暮らし方ができる場所を作っていくために、「家守プロジェクト(空き家リノベーション)」や「まなびのひろば(コミュニティスペース)」の運営といった2つの事業を進めています。

こんな人におすすめ 第二の活動をしたい人。(市職員のパラレルキャリアで設立)



特定非営利活動法人C.O.N

活動内容/「人も動物も幸せに」をモットーに、人と動物にまつわる社会課題を発信しています。高齢者とペットの安心プロジェクトとして、「相談支援」「訪問支援」「もしもに備える支援」などを行っています。

こんな人におすすめ 保護猫活動や動物と人の共生に興味がある人。



あま女将ラボ

活動内容/看護師免許を持つメンバーが中心となって、住民の暮らしのそばでみんなの健康と一緒に作る人(コミュニティナース)として活動しています。また、コミュニティナースの周知や育成、拠点づくりなどもしています。

こんな人におすすめ 地域で困っている人を助けたい「おせっかいな人」



護美奉行

活動内容/毎月1回、尼崎城や寺町など阪神尼崎駅周辺で、刀型のトングを使ってゴミ拾いを行っています。清掃しながら尼崎城や寺町の歴史の話をしたりしなかったり?一緒に尼崎の街を楽しく歩いてみましょう!

こんな人におすすめ 気軽にまちに関わりたい人。お子さんもぜひ!



いよたみのりさん

特定非営利活動法人 MixRainbow 理事長。会社で正社員として働きながら、MixRainbow を立ち上げ、活動に取り組む。イベント開催のほかに、自身の経験をもとに学校や団体に向けた講演や研修等も行っている。

尼大生物語

“やってみる” から始まる

多様なセクシュアリティの人が生きやすい社会の実現に向けて取り組む、いよたみのりさん。「尼大にいて、“できそう” な気がしてくるんですね」と言います。セクシュアリティに関する思いや経験をシェアし合える場が身近にできればと思いつつも、誰かがつくってくれるのを待っていた入学前。たまたま見つけて参加した尼大のオープンキャンパス「オトコとオンナ〜『らしさ』の呪いを解くために〜」を機に、大きくコトが動き始めます。



ゲストトーク&参加者同士のディスカッションを行った3時間のうちに、“できない理由” は置いて「やってみたらいいやん！」精神が息づく校風を感じ、いよたさんの気持ちも「自分でつくったらいいやん！」と変化。帰る頃にはその場にいた市の担当者に居場所づくりについて相談していたそうです。

まもなく個人で団体 MixRainbow を立ち上げ、入学から半年後には LGBTQ+ の人や支援者、学びたい人などが集まり交流する定例会「みんなの居場所」を市と共催でスタートしました。

一步踏み出すと、つながる

尼大のことを「リアル版 SNS」「自分&他人をプロデュースできる場」と例えます。尼大生に「こんなことをしたいねんけど」とつぶやくと「やってみたらいいやん！」と肯定的な意見に背中を押され、「こんな、あるで！」「一緒にやらへん？」と次々とアイデアや提案があり、巻き込み、巻き込まれていくうち、いつのまにか実現。

LGBTQ+、特にトランスジェンダーの人が銭湯や温泉に入浴するためのイベント「虹色銭湯」などイベント開催、NPO 法人化、LGBTQ+ の相談室兼事務所開設と、「こんなできたらええな」を現実化させてきました。

入学から5年目、「みんなの居場所」は参加者が初年度の十数人から平均30人ほどへと増加。また、MixRainbow の取り組みを参考にしたいと他市から視察に訪れることもあるそうです。

「誰もがセクシュアリティなどについて気軽に話せる部活を立ち上げたい」「LGBTQ+ の従業員に対する取り組みについて企業と一緒に考えられたら」といよたさん。そのまわりに、「ここ、紹介するで」と想いをキャッチしてつなぐ尼大生の姿が見えてきます。

自分事をみんなの関心事に

いよたさんが踏み出した一步一步が、誰かにとっての自分の生き方を切り拓く選択肢を増やすことにつながっています。個人の課題解決をみんなの課題解決へ、尼崎市での取り組みを他市の取り組みへつないでいく…1人の想いと行動が、社会をよりよく変えていく可能性を尼大生のセンパイとして体現し続けています。

「誰もがセクシュアリティなどについて気軽に話せる部活を立ち上げたい」「LGBTQ+ の従業員に対する取り組みについて企業と一緒に考えられたら」といよたさん。そのまわりに、「ここ、紹介するで」と想いをキャッチしてつなぐ尼大生の姿が見えてきます。



尼崎大学に出会ってしまい、自らの暮らしや活動が思わず広がった二人の尼大生の物語をご紹介します。「私の学び」がいつのまにか「みんなの学び」になっているお二人の取り組みに注目です。

会社にとって尼大は研修の場 尼大生は外部ブレン

業界外の視点が突破口

水道・排水・給湯・エアコン・換気・消火といった設備の配管と器具取付工事を行う、照屋設備工業株式会社の照屋健一郎さん。若手の採用活動に頭を悩ませ、同業者に相談するもどこも苦戦中。活路を見出したいと藁にもすがる思いで「尼崎 相談」とネット検索してたどりついたのが尼大の相談室でした。



“相談室”だから1対1で話すのかと思いきや1対22！ 相手は市役所職員や市民など、その場に集った人たち。ラジオ体操&自己紹介のあと、持ち寄った相談話を話さず、誰もが興味津々に耳を傾ける姿に気持ちが盛り上がり、気づいたら「建築設備工事は人々の日常生活を支える仕事。しかし、工業高校でも学科が設置されている割合が少なく、常に人材不足。業界の高齢化が進む今、若い職人を育てたい」と熱弁していたそうです。すると、「息子が大きくなったら設備の

仕事をさせたい」「湯（ユー）配管する人（チューバー）として動画配信を始めてみては」といった肯定的な意見やアイデアが！「いい意味で、好き勝手に言いたい放題」と照屋さん。同業者内では諦めムード濃厚だったのが、前向きな気持ちになれたことが一番の収穫だったと振り返ります。

育ち合い、成長する関係性

建築設備工事の仕事を知った人も多く、仕事を広く知ってもらう必要性を感じたそうです。以降は多い時で月3回ほど尼大の行事に足を運んで相談するほか、仕事を知ってもらうために、寿司やおでんといったユニークな形の水道蛇口の投票キャラバン、地域イベントで竹と配管パイプを組み合わせた流しそうめん台づくりの提供を行うなど、あれほど頭を悩ませていた採用活動をおもしろがれるようになっていました。

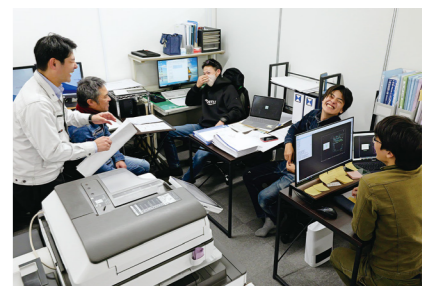
そうこうするうち、尼大内で「こんな会社がある。こんな仕事やで」と人から人へ伝わり、その情報をキャッチした当時18歳の砂場歩武さんが入社しました。

尼大での自身の経験を振り返り、「尼大には人を育てる土壌がある」と照屋さん。現在は砂場さんが会社のある大庄地区で公園づくりプロジェクトに参加。「アスレチックがあったらおもしろそう」とつぶやいたら、参加者から「やってみたらいいやん！」との後押しがあり、公園の社会実験イベントで取り組むなど、尼大の土壌でメキメキ成長中です。



照屋健一郎さん

照屋設備工業株式会社代表取締役。父親が個人事業で行っていた建築設備工事を引き継ぎ、創業。漫画チラシやアルバイト体験会、小中学生への仕事PRを兼ねたオープンな事務所などユニークな採用活動を展開。



みんなの尼崎大学を知るための

キーワード!

2017年に開学したみんなの尼崎大学では「大学ごっこ」と称して、さまざまなプロジェクトが生まれています。あなたの「!」を見つける入り口としてどうぞお気軽に参加してみてください。

【オープンキャンパス】

さまざまなスポットを会場に体験と対話を通じて学びを深めるオープンキャンパス。これまでに材木店や小学校、畑、ポートレース尼崎で開催しました。「FARM & PIZZA!」と題した第37回では、尼崎で農業にかかわる人がつどい、それぞれの立場からこれからの農地の使い方について話すトークイベントを開催。その後は実際に畑を訪れて、とれたて野菜を生地に乘せたピザを焼いて食べました。子どもからシニアまで世代を超えてみんなで意見を交わしながら学びを深めました。



せめる! 尼崎運河



提供: かにかま企画



オトナはわかってくれないのか?



ダイナマイト! センターホール

材木店で開催した「笑うケンシン」では、4人のゲストを招き検診・健診にどうして行かせるのか、なぜ行きたくないのか、その理由をユーモアを交えながらも真剣に探りました。

【みんなの相談室】

隔月の第2水曜日に開催している誰でも参加できるゆるやかな情報交換・交流の場。尼崎にまつわるイベントや活動、プロジェクトやアイデアの相談ができます。居合わせた参加者が意気投合し、それぞれの得意を活かしてイベントをしたり、プロジェクトに賛同してくれる仲間が見つかったりと、思いがけない出会いが生まれています。「みんなの相談室」のような場所は、市内各地のさまざまな場所で開かれています。



【学部】

「生活科学部」や「海洋学部」、「農学部」などさまざまな団体が学校ごっこに合わせた名前で活動しています。



【学生証】



学生証はみんなの尼崎大学ファンのあかし。「いつでもだれでも入学願書」を出すと、学生証の分が味わえるオリジナル学生証が発行され、月1回のメールマガジンが配信されます。入学願書受付窓口はみんなの尼崎大学事務局や各生涯学習プラザなど。ウェブフォームからも提出できます。



【ATTF】

アマガサキ・トゥ・ザ・フューチャー 2 (ATTF2) は、みんなで尼崎市の課題を知り解決策を考えるカードゲーム。尼崎で暮らす人からの「きいて」というお悩みに、まちのお宝を組み合わせ「おせっかい」します。

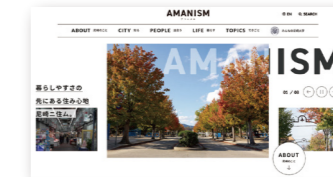


【今月のスポットライト】

気になる尼大生を招いて、これまでの活動や取り組みについてインタビューする企画。みんなの相談室のミニコーナーとして開催し、各回の様子はYouTubeで見ることができます。



【AMANISM】



尼崎に住むための情報サイト「AMANISM- アマニズム」では、「暮らし」に焦点を当てた情報を発信中。みんなの尼崎大学に関する記事や市内のイベント情報など盛りだくさん。



【秘密基地】

ひと咲きプラザアマブリ 1階にある尼大生がDIYで作った拠点。みんなの相談室で生まれたイベントや部活動に使われる尼大生の交流スペースです。壁一面には市内のチラシが設置され情報収集にも役立ちます。



【サマセミ】

サマセミこと「みんなのサマーセミナー」は夏休みの2日間、まちの誰でもセンセイ、誰でもセイトになれる「学校ごっこ」。2015年から有志の実行委員会が主催し、本物の学校を借りて毎年約300の授業が開講しています。センセイは人前で話すのが初めてという人から大学教授まで。高校生や大学生中心のボランティアが学びの祭典を盛り上げます。

